

夢へ、一歩

「女川向学館」卒業式

女川町でNPO法人「カタリバ」(東京)が運営する無料の学習塾「女川向学館」で12日、中学3年生の「卒業式」が開かれた。生徒たちは全国からの支援を受けて勉強できたことに感謝し、将来への夢を膨らませた。

カタリバは昨年7月、東日本大震災の津波で家や教室が流された子どもたちを支援するために、全国から支援を受けて勉強の場を提供しようと、町教委などと連携して向学館を開設。町全体の3分の1、約200人の小学生が通った。被災した地域の塾講師ら12人が教壇に立ち、約150人のボランティアが交代で個別指導に当たってきた。運営費は全(15)が「向学館」で多くの個人・団体からの寄付に出会い、支えられた。夢へ一歩ずつ歩んでいった。

女川一中の山本瑞帆さん(15)が「向学館」で多くの個人・団体からの寄付に出会い、支えられた。夢へ一歩ずつ歩んでいった。新年度も約200人の小学生が向学館で学ぶ予定。運営責任者の鶴賀康久さんだという。

(31)は「まだまだ大変なところがあると思うが、これからはサポートしていく」とエールを送った。式後は生徒とスタッフが車座になった。



笑顔で「卒業証書」を受け取り、先生と握手をする女川向学館の生徒